

「詩篇 117:1-2」

詩篇 117:1-2

Psalm - 詩篇 - 117

すべての国々よ。主をほめたたえよ。すべての民よ。主をほめ歌え。その恵みは私たちに大きく、主のまこととはとこしえに。ハレルヤ。その箇所は、聖書の中で一番短く、英語で21の言葉しかありません。また、聖書の中に1183の章があります。ちょうど真ん中にある595章目が詩篇117章になります。山の頂上に立っているようなものです。山の頂上からは全部が見えるように、この章を良く字どと神様の心が見えてきます。そこには3つのポイントがあります。

『The Call』それは『礼拝』すること

この詩篇が私たちに召していることは、その御名を高く上げるように、主の栄光をたたえるようにハレルヤ「主を誉めよ」と言われています。神様が一番心していることは、この『礼拝』だということです。フィリップ先生の幼い頃、教会は「これしてはいけない、これをしなければいけない、そんなところだ」と思っていました。ですから、良いことをしたらもっと神様から愛され、悪いことをしたら神様は見捨てられるんじゃないかと思っていました。しかし、神様が心していることは『礼拝』なんです。『私たちが何のために存在しているか?』ウェストミンスター信仰問答で一番大切な事は何かというと、『私たちは何のために存在しているか?』という質問です。クリスチャンとして何が一番大切でしょう。人間にとって一番大切なのは、『神様をあがめて喜ぶこと』だと言われています。神様を主の御名を崇め、献身するために私たちは創造されました。ハレルヤ。

『The Reach』(活動すること) 福音を伝える

聖書は、「すべての民が神をあがめよ。」と言っています。当時神様を崇めよと書かれていたのは、唯一イスラエルの民だけでした。イスラエルは世界の中で、ほんの小さな民族でした。しかし、一番大きな問題は、この民が他の異邦の民が神様を礼拝することを拒絶していたのです。イスラエルは当時、『ゴヤ』(異邦人)という言葉があり、異邦人は汚れた民と思われていました。異邦人は偶像礼拝を行い、神様の前に罪を行う望みも無いので、イスラエル人からしたら関わりたくない存在でした。それはヨナの聖書箇所にも見る事ができます。ヨナは神様に命じられてニネベに宣教に行けと言われましたが、神の声に従わず、全く反対に行きまわりました。ヨナは、神様が憐れ深くニネベの人たちを裁かず守ろうとしていた事が救せなかった。ヨナは神様の恵みを異邦人に届けたくなかったのです。そして、これがイスラエルの民の差別の姿勢で、新約聖書まで続いています。使徒の働き21章では、パウロが捕らえられた時、イスラエルの民は、異邦人を神殿につれてきて神殿を汚したと腹を立てたのです。これほどまでにイスラエルの民は異邦人を嫌っていました。『すべての民よ、主を誉めよ』『すべての民よ、主を崇めよ』ですからこの御言葉は、当時のイスラエルでは考えられないような、預言的な言葉でした。素晴らしい可能性として語られているのです。それでは、どうやって異邦人が礼拝できるようになるのでしょうか? 私たちは祖先が異邦人だったのに、今はこうして一つの生ける神を礼拝しています。詩篇117篇の成就を實踐しているのです。神様は当時から私たちのことを心しておられて、この詩篇を書かせました。このことですね。もつとすこいことは、日曜日に世界中にタイムゾーンごとに礼拝がさざげられていくのです。俯瞰して見たとき、私たちはグローバルな教会の一部だということになります。ハレルヤと神をほめたたえよ。全ての民、全ての国民の一部なのです。全ての民が神をほめたたえよと言っていますが、世界の1万7千の全民族のうち、1万がすでに福音を持ち、7300の民族にはまだ福音が届いていない状況です。ですから私たちは、福音を持ち、ただしい礼拝をまだ届いていないところに届ける使命があるのです。

ロザンヌ運動 福音を伝えるための働き

このミッションのゆえに、私はロザンヌのはたらきに加わるようになり、また、ロザンヌの働きというのは、世界のクリスチャンの人とアイデアをつなげる働きです。すこく単純に、私たちの知恵を集めたら、もつと良い働きができるという考えに基づいています。このロザンヌ運動は、1974年にピリッグラムが世界からのリーダーを集めたことがきっかけで始まりました。世界中に素晴らしいクリスチャンがいたとしても、彼らはお互いに繋がる機会がないという問題を見つけたのです。そこで各地のリーダーが集まって力をあわせる機会を提供するというのがロザンヌの始まりです。第一回目は、195か国から2600人のクリスチャンのリーダーが集まり、未伝道部族への宣教だけでなく、包括的にその人の霊的・身体的なサポートが始まりました。第二回目の大会は15年後に開かれました。1989年にフィリピンのマニラで173か国3000人。このときルイス・ブッシュ先生が「10/40の窓」を提唱し、クリスト教の福音宣教が困難な、北緯10度から40度の民族に焦点を合わせて福音を述べ伝える働きに力を入れています。第三回目は、その15年後にケープタウンで開催され、190か国が集まりました。この時、中国からの妨害を受け、何日か動けなくなりました。しかしその時、すばらしいことが沢山起こりました。そのうちの一つに、神の民として『謙遜』『真実な信仰』『シンプルな生き方』が示されたのです。この2010年の大会にはたくさんの有名な牧師がいました。スキャンダルや神様の恵みを忘れたような生き方をされている方もいました。イエス様は、謙遜で真実なお方、そして負しシンプルな生き方を示されました。第四回目の大会が9月22日から韓国で開催されます。そこには200か国から5,000人のリーダーが集まります。神様が世界の教会を力づけ、世界の宣教が進むようにどうか祈ってください!

『The Motivation』(動機) 神様の愛と真実のため

「すべての民よ神を崇めよ」その理由は、私たちが作られたからでもなく、天を得るためでも、地獄を避けるためでもなく、ただ神様の愛への応答です。あなたがたは、神様の愛と真実をどのように示しておられますか? 私たちは神様を礼拝するために造られたにもかかわらず、神でなくこの地上のものに心を奪われるようになったのです。

仕事、健康、成功、家庭、安全...これらは神様がくれた素晴らしいプレゼントだけれど、それを私たちの礼拝の対象にしてしまっているのです。安心のために、仕事に行く、希望が欲しくて家族や友達と関わる。信頼をこの世に求める、こういうものは一時的なものにすぎません。本来、神様が下さるのに、このようなものに心を向けていることは問題なのです。十戒の最初に、あなたの神々の前に他の神々があってはならないと言っています。しかし、ジャンカルバンが「人間の心は継続して偶像を拝むようになっってしまった」と言っているように、私たちは偶像礼拝をしているのではないのでしょうか。神様を礼拝しないで安全とか希望をそういうものに求めてしまう。神様はそういう時に私たちに罰を与え、私たちに罰を与える時もあります。私たちが本来悔み深く、怒るのを遅く、愛にとんでいて、ご自分の御子を、私たちが神様に与えてくださいます。イエスキリストが十字架にかかる前に、詩篇117篇をよんだと言っていました。イエスキリストの民にとつては、この意味がよくわからなかったでしょう。イエスキリストの心があつて、今私たちがここに集まっています。自分自身のいのちをこの詩篇が成就したことがわかります。神の心があつて、私たちがここに集まることができて、『礼拝』しています。イエス様はご自分のいのちを犠牲にすることによって、この詩篇を成就されたのです。イエス様は完全に神様に捧げきった生き方をされました。その十字架の上で私たちの罰を受け、わが神が神、どうして私をお見捨てになつたのですか? 私たちの偶像礼拝の罪のために、イエス様は私たちの代わりに罰を受けてくださいました。ですから私たちは、完全な礼拝者として受け入れていただくのです。イエスキリストの完全ないのちが、私たちに与えられています。十字架のイエスキリストのひるげられた手は、「開く」ことは「私を抱く」という私たちに向けられた、神の情熱があふれる愛があります。私はあなたを愛した。私はあなたを愛している。その為に私は死ぬ。またあなたは、神様の美しさを、イエスキリストの美しさを見つめて、主を誉め歌いましょう! それは喜び、感謝の叫びです! 神さまの美しさがしっかりと見えた人ができる、神への賛美です。聖書には「世界から神様の民を集める」という意味があります。全ての民族、言語、文化に届いて行って神の民を集める。その中心に礼拝があります。私たちの力でなく、純粋な祝福、感謝です。神様を心から礼拝したとき、実は神様が私たちが作ってくれたその目的が実現するのです。これは最終的に私たちにどんな意味があるでしょう。1つ目は、「神を礼拝しましょう。」神様はここにきて賛美して礼拝するのは素晴らしいです。この日だけに神様を賛美するんじゃなくて、朝も夜も一日中、1週間通してこの瞬間でも神様を見上げてください。2つ目は、詩篇117篇のことを思い出し出してください。私たちが神様の愛が包んだように、それを必要としている人はいませんか? この詩篇117篇がみなさんへのミッション、宣教のチャレンジャーとなりますように。神様に祈ってください。みなさまの家族や隣人に届くように。イスラエルの民は、異邦人と一緒に礼拝することは想像もしていませんでした。この画報がクリスチャンになるのを不可能だとおぼえていませんか? 神様は家族や友達や同僚のこころを変えさせる事ができるのです。人には不可能であっても、神にはできるのです。3つ目は、宣教の働きを祈って支えてください。皆さんがここにきてくださるのは宣教師が来てくれたからです。それがみなさんだけで終わらないように、神様の世界への愛を伝える働きを継続してください。

Revelation 黙示録 7:9-10

その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの杖を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」

さいごに

私たちが神様を礼拝するためにこの命が与えられている事を覚えます。そして私たちが、詩篇の御言葉が成就するただ中にあることを感謝したいと思います。私たちはこの福音を途切れさせることなく述べ伝えたいと思います。イエスキリストがすでに成してくださった愛によって、私たちが同じ愛を持った人と手を取り合い、届けるべき人に福音が届く主の御業に期待したい。「ハレルヤ」

(要約者:横山 栄子)

(2024年9月8日)